

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (57)



～ 未来を創る、真剣で温かい思いが・・・ ～

石垣市教育委員会学校教育課 指導係長 上原 太郎

公民館長さん：「先日、公民館に Wi-Fi を整備しましたよ。まあ、これからの時代に備えるためでもありますけど、やはり、地域子ども達にとっての居場所として、公民館をより良く多様な形で活用してもらいたいから、という思いが一番強いですよ…。」

続いて、老人会長さん：「最近、子ども達の安全安心を脅かす様な問題はないですか…。もし何かあれば、可能な範囲で情報を共有させて下さい。朝のあいさつ運動以外にも、我々、老人会のメンバーの中にも何かしらお手伝いできる者はいますからね…。」

さらに続けて、PTA会長さん：「保護者同士も何らかの交流を通して、今以上に和を持って繋がることで、子ども達により豊かな学校生活を提供できる、と考えています…。皆さんで知恵を出し合っていきたいです…。」

その他、婦人会長さんや幼稚園の保護者代表の方々からも、子ども達の登下校時の安全安心の確保について、また小学校就学前の子ども達の状況に係る貴重なご意見が、真剣かつ温かい雰囲気のもと交わされました。

上記の内容は、去る6月のある日、宮良小学校での学校評議員会に参加させていただいた際のやり取りです。

学校評議員制度は、平成12年の学校教育法施行規則の改正により、地域住民の学校運営への参画の仕組みを制度的に位置付けるものとして導入され、平成14年より本市においても導入、現在、市内全ての小・中学校において学校評議員会が毎年定期的に進められています。

私たちは誰しも、「何らかの組織や集団に所属して安心感等を得たい」、という思いがあり、「他者からの承認に伴う自己肯定感の高まりやその意識づけ、自立性を得ることで、自らの勇気と共に次なるステップへと歩みを進めることが可能となる」、と言われていました。

そのようなことから、現在、各学校において進められている学校評議員会を改めて考えると、「各地域の有志の皆様によって静かに交わされている真剣かつ温かい思いが、校長先生の学校経営方針等と相互に作用し、さまざまな行事や取り組みが叶う大きな要素になっていること…。また、「それらの行事や取り組みの重なりによって学校における子ども達の安心感や所属感が醸成され、一人ひとりが未来を切り拓く豊かな学びの実現と、さらには知恵と誇りを持って地域を切り拓いていく『生きる力』の育成へと繋がっていること」等…。学校と地域が一体となる際の計り知れないほどの大きな原動力をずしりと感じる事ができます。

ただ今後、少子高齢化や人口減少などにより社会構造が変化する中においては、学校教育の持続性を確保しながら、魅力ある学校づくりを推進するためには、より一層地域と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとして、子ども達一人ひとりの成長を支えていく必要性が増していくことと思います。

現在、3年目のコロナ禍にありながらも、本市の小・中学校等においては、子ども達を主役として、ハーリー体験学習、豊年祭の旗頭や奉納踊り、稲作体験学習等の農業体験、海や山に関する環境学習、各事業所における職業体験等の取り組みや、地域の方々による朝夕の見守りやあいさつ運動、その他、地域の皆様の理解と協力なしには実現の難しいありとあらゆる貴重な活動が展開されています。この掛け替えのない活動が5年後、10年後、さらには現在の子供達達が親世代になる頃までも持続的に繋がるよう、状況に応じて関連ある制度をアップデートさせ、私達大人一人ひとりもさらなる意識改革が必要な時期にあると感じます。

日本最南端の自然文化都市を誇る石垣市には、エメラルドグリーンの眩しい豊かな海、どこまでも広く自由な青空と輝く満天の星空・・・、どこからともなく届く三線の優しい響き等々・・・、多様な自然と文化がいつも傍らにあります。これからの未来においても、学校と地域に関わる一人ひとりが、この島の素晴らしい環境に包まれて育つ子ども達に対して、当事者としての協働の意識を抱き、より一体となり子ども達一人ひとりを励ましていく・・・という歩みを決して止めることなく、日々前進することが求められているとも感じられます。

子ども達の未来に思いを馳せる時、やはり地域と学校の繋がりの中でたくましく成長する姿が思い浮かびます。きっと私達一人ひとりの真剣で温かい思いが、確かな未来を創ります。



写真1 地域の皆様の温かい思いによる宮良小学校の「川下り体験」の様子